

「ビジネスリーダーにとって欠かせないものは何ですか。」

(はい、いいえ、どちらともいえないの3択で回答。下記数値は「はい」と回答した人数・比率。N=30)

	選択肢	人数	比率	補足
1	MBA(資格)	4	13.3%	
2	MBAなどで学ぶ経営の知識	17	56.7%	
3	修羅場体験	26	86.7%	
4	実績	24	80.0%	成功実績だけではないという意見もあり
5	得意の専門性	22	73.3%	
6	倫理観、使命感など	28	93.3%	
7	その他(自由回答)⇒海外勤務経験、子会社などの取締役など経営経験などの回答があった。			

回答企業は、既にビジネスリーダープログラムまたはコーポレート・ユニバーシティを運用している人事部門責任者またはコーポレート・ユニバーシティの責任者にヒアリングをした。対象企業には、公益法人も含まれる。

1982年米国で12.8%の失業率を記録した後、人材の育成に投資・成功した企業が、その後も成長を続けたという印象がある。特にGEのコーポレート・ユニバーシティと人材評価のE³ (Energy, Energizer, Edge)はその後の人材マネジメントのモデルとなっている。当時、デュアルリーダー、マルチリーダーという言葉をよく聞いた記憶がある。2つの階段、複数の階段つまり複数の専門性という意味である。様々な専門性や多様な経験を有することで未知なる経営課題をソリューションできるという考えである。プロフェッショナルの流儀というテレビ番組があるが、本来プロフェッショナルとは未知なる課題を解決するものであるからして、専門性は複数求められることになる。

現在、金融危機の本場である米国モデルを否定的に見る面もあるが、医薬、IT、コンテンツビジネス、先端技術分野など起業人材は世界トップといえる。ビジネスリーダープログラム、MBA、コーポレート・ユニバーシティは米国が本場であり、多くの日本企業或いは個人も参考とし導入している。

上記のアンケートは、当社が独自でとったヒアリング形式のアンケート結果である。MBAの資格については、一時期と比べるとウェイトが下がっているようで、米国経営大学院でも日本

人枠は少なくなっていると聞く。企業派遣でMBA取得をした人も多いが、ビジネスリーダーを目指すのであれば本来自費で行くものではないか。

MBAで学ぶ知識に関しては56.7%が「はい」と回答している。研究・技術系部門、製造系部門などからみれば経営学的知識よりモノづくり知識の方が重要であり、経営センスは実践を通じて学ぶものという感覚もある。また、実践として必要性に追られないと財務なども使える知識にはならないという。教育制度が不十分な時代のビジネスリーダーは必要な知識は自ら学んだはずである。

修羅場的体験が86.7%である。ビジネスリーダーになるには、現場で叩かれる・泥の川を泳ぎきる経験が何よりも必要である。倫理観や使命感などは、恐らくはそうした修羅場体験を通じて、時間をかけて養われていく。

ビジネスリーダー育成プログラムの課題は、先にプロジェクトリーダー(情報系が多く取得しているプロジェクト・マネジメントとは異なる)を育成することであり、そうした人材マネジメント制度が、社内外において、有機的にリンクしていることである。MBA的知識は肅々と習得し、理不尽ともいえる課題(プロジェクト)に多くチャレンジする仕組みとアクションラーニングを提供・支援することが重要であり、基本である。



カタナ・パフォーマンス・
コンサルティング株式会社

T 112-0012 東京都文京区大塚1丁目5番18号
 桜屋ビル Tel:03-6431-0200 Fax:03-6431-0204
<http://www.kpci.jp/>
 ビジネスリーダーに関する関連記事、プログラムなどは下記サイトへ
<http://www.kpci.jp/2008/11/1119.html>